

風を切って走る楽しさに魅力を感じた

男子タンデム（後）ストーカー〔左〕^{きむら かずへい} **木村 和平**

2人で走れば喜びも倍増

男子タンデム（前）パイロット〔右〕^{くらばやし たくと} **倉林 巧和**

木村 和平 北海道出身。倉林 巧和 群馬県出身。
第9回パラ・アジア・トラック選手権（2019年）個人追い抜き優勝。

パラサイクリングとの出会いは？

木村 生まれつき弱視で視力が低下し、盲学校に通いました。2016年、監督が来校されてタンデム自転車体験会を行い、自分もそこで初めて体験しました。風を切って走る楽しさ・パラリンピックを目指せることに魅力を感じてパラサイクリングを始めました。

倉林 2017年2月まで個人で自転車競技をしていました。引退しようと思っていたとき、監督に声を掛けていただき、2017年4月の山陽小野田市のキャンプで初めてタンデム自転車に乗りました。

ペアを組むお互いのことをどう思っていますか？

木村 気を使わないで済むし、ストレスを感じない。会社も一緒に、家族より長い時間一緒にいます。困ったときに相談できるお兄ちゃん的存在ですね。

倉林 弟みたいな存在かな（笑）。本当にしっかりしています。よく考えているし、わからないことはちゃんと聞いてくるところが木村くんのいいところ。

2020年の抱負をお願いします

木村 東京2020パラリンピックに出場することです。1月下旬に世界選手権があるので、そこに照準を絞って、東京につなげたい。

倉林 東京2020パラリンピックでメダルを狙いたい。タンデムは、2人の力がひとつの力になる競技。2人で走れば喜びも倍増！もっともっと成長し、夢を叶えたい。

INTERVIEW

ペダルを踏む、風を切る

INTERVIEW

東京2020パラリンピック パラサイクリング 競技日程



トラックレース

8月26日^水～29日^土

伊豆ベロドローム
（静岡県伊豆市）



ロードレース

9月1日^火～4日^金

富士スピードウェイ
（静岡県駿東郡小山町）

取材を終えて

パラサイクリング日本ナショナルチームのみなさんは笑顔がとても素敵で、取材中、明るくフレンドリーに接してくれました。殖生小学校での交流事業では、子どもたちからの質問に笑顔で丁寧に答える選手の様子が印象的でした。権丈監督にお話を伺うと、「強くなる選手は応援したくなる選手」だそうです。取材を重ねて、私は本当に応援したくなりました！

さあ、今年2020年はいよいよ東京パラリンピックの開催年です。パラリンピックへの出場権をかけた戦いが続きます。山陽小野田市から選手に声が届くよう、みんなで“風になる者たち”パラサイクリング日本ナショナルチームを応援しましょう！

[シティセールス課広報係]

